




a 論文審査及び最終試験又は学力確認の結果の要旨

① ・ 乙	氏 名	森藤 吉哉
学位論文名	Association between sleep disturbances and abdominal symptoms	
学位論文審査委員	主 査	稲垣 正俊 
	副 査	田島 義証 
	副 査	柴垣 広太郎 
論文審査の結果の要旨		
<p>日常診療では、消化管に器質的な異常がないにもかかわらず、消化器症状を有する患者は少なくない。それらの症状は機能的消化管疾患と総称され、胸やけを主症状とする gastroesophageal reflux disease (GERD)、上腹部痛や食後の胃もたれを主症状とする functional dyspepsia (FD)、排便の変化に伴う下腹部痛や下痢・便秘を主症状とする irritable bowel syndrome (IBS)に分類される。各々の機能的消化管疾患では睡眠障害を合併しやすいことが報告されているが、それらのオーバーラップが睡眠障害に与える影響は不明であった。本研究では、同一の対象における GERD 様、FD 様、IBS 様の有症状率とその併存率を評価し、それらが睡眠障害に与える影響を検討した。</p> <p>健診を受診した 2936 名（男性 1835 名、女性 1101 名、平均年齢 54.8 歳）を対象とした。GERD 様、FD 様、IBS 様症状は出雲スケールによって、睡眠障害は日中の眠気を評価する Epworth Sleepiness Scale (ESS)によって検討した。GERD 様、FD 様、IBS 様症状は全対象の 7.9%、8.6%、18.0%に認められ、各有症状群の ESS スコアは無症状群に比べていずれも有意に高かった。また、有症状例の 30.9%では 2 つ以上の症状が併存しており、単独の症状を有する例より併存例で ESS スコアが高い結果であった。病的とされる 11 点以上の症例を対象とした多重ロジスティック解析では、年齢、FD 様症状、IBS 様症状が有意な因子となった。また、FD 様症状を胃もたれと上腹部痛、IBS 様症状を便秘と下痢とに分けて同様の解析を行うと、FD 様症状では上腹部痛が、IBS 様症状では下痢が ESS と関連する有意な因子となった。本研究は、GERD 様、FD 様、IBS 様の各症状、および、それらの併存が睡眠障害と相関するという重要な新知見を明らかにしており、学位授与に値すると判断した。</p>		
最終試験又は学力の確認の結果の要旨		
<p>申請者は、機能的消化管疾患の各症状と日中の眠気との関連を示した。これは臨床的に重要な知見である。申請者は、関連する領域の知識も豊富であり、博士（医学）授与に値すると判断した。 (主査：稲垣 正俊)</p> <p>申請者は、健診受診者を対象に、器質的な異常のない機能的消化管疾患に伴う消化器症状が睡眠障害に強く関与することを示した。診療上、重要な知見であり、関連知識も豊富で、博士（医学）の学位授与に値すると判断した。 (副査：田島 義証)</p> <p>申請者は多数例の横断研究で、腹部症状と睡眠障害が正の相関を示すことを示した。今後の課題も明確にされ、追加研究も予定されており、医学博士の学位授与に値すると判断した。 (副査：柴垣 広太郎)</p>		

(備考) 要旨は、それぞれ 400 字程度とする。